

11月3日(土)~4日(日)にかけて
「東京音楽大学第55回芸術祭」が開催されました。



11月3日(土)～4日(日)にかけて東京音楽大学芸術祭が開催されました。公式企画の「Dream on Beat with 津堅ブラス」、「プレミアム・オーケストラ」をはじめとした学生企画によるコンサート、模擬店、野外ステージなどが2日間にわたって行われました。学生主導による芸術祭は今年で55回目を迎え、東京音楽大学の長く続く伝統のひとつとなっています。今回、中心となった芸術祭実行委員とメイン企画の出演者からそれぞれお話を伺いました。

■ 第55回芸術祭実行委員長 玉置龍執さん(大学3年・トロンボーン)



芸術祭実行委員長として、主に各部署と連携をとりながら、準備から当日にいたるまで100名あまりの芸術祭実行委員をまとめました。芸術祭は大学1年生のときから携わり、今年は委員長まで任されてやりがいもひとしおでした。不安なこともありましたが、多くの方に支えられ、乗り越えることができました。学生主体で作り上げる、伝統ある芸術祭はとても楽しく、青春を満喫することができます。とくに実行委員は大変ですが、ただ観客として芸術祭に参加するよりも数多くの経験を積むことができると思います。これから入学してくる皆さんも芸術祭実行委員や演奏者として、積極的に芸術祭に携わっていただければと思います。

■ 芸術祭コンサート部署長 畠山奏美さん(大学3年・トロンボーン)



今年は東京音楽大学創立111周年。大学からもスペシャルな企画を、ということで今までにないものをコンサート部署で企画しました。3日の公式企画は津堅直弘先生のブラスと、歌手を招いてのミュージカルナンバーをはじめて試みました。4日の公式企画「プレミアムオーケストラ」では世界で活躍する在学生・藤田真央さんをソリストに迎え、難曲揃いのプログラムを準備しました。演奏者の依頼など一から学生だけでやるので準備は大変でしたが、例年より多くの感想をいただきました。東京音楽大学はすばらしい先生方・先輩・友人たちからたくさんの刺激をうけて、大きく成長できる大学だと思います。

■ プレミアムオーケストラ 指揮者 中西亮さん(大学4年・指揮)



芸術祭プレミアムオーケストラの指揮には1年生のころから、先輩たちを見て憧れていました。指揮をすると決まった時は嬉しさがこみあげてきたほどです。世界で活躍する藤田真央さんをソリストに迎え、回数を重ねるごとにオーケストラと共に自分自身も大きく成長できました。ストラヴィンスキーの「ペトルーシュカ」は難曲。学生だけで練習に臨む有志オーケストラのよさを発揮してみんなで取り組んだ結果、打破できたと感じています。今回の経験を通じ、改めて切磋琢磨しあい助け合う東京音楽大学の校風を強く感じました。

■ プレミアムオーケストラ ソリスト 藤田真央さん(大学2年・ピアノ演奏家コース・エクセレンス)



付属高校から進学して5年目になりますが、A100周年記念ホールでオーケストラと協奏曲を弾くのははじめてでした。10月の末に芸術祭オーケストラとの合わせをしましたが、安心して演奏をゆだねることができました。本番では練習とは違うテンポで弾きましたが、うまくいった良かったと思います。コンサートの後、模擬店も満喫できて最高の経験でした。東京音楽大学は授業も設備も充実していて、音楽を学ぶには最適な環境です。来年には新キャンパスも開校され、新しいものも積極的に取り入れる印象があります。これから受験する皆さんにはこの大学でたくさんのことを学び、羽ばたいていただけたらと思います。

■ プレミアムオーケストラ コンサートミストレス 布施薦実さん(大学4年・ヴァイオリン)



友人に声をかけて一緒に演奏した、学生生活2度目のプレミアムオーケストラ。1回目は1年生のときで先輩たちについていくのが精いっぱいでしたが、今回はコンサートミストレスとしてみんなを引っばる立場でしたので、違う意識で臨みました。普段の授業外の活動なので譜読みや練習などを自分たちでやらなければいけないという課題はありましたが、学生だけでお互いのモチベーションを引き上げ、ひとつの目標に向かって仕上げるという貴重な時間を過ごすことができたと思います。4年間で個人の演奏だけでなく、アンサンブルをする機会に多く恵まれ、友人たちと充実した学生生活を過ごすことができました。

■ DREAM ON BEAT~with 津堅ブラス~ ソリスト 浅野千尋(大学4年・声楽演奏家コース)



クラシックと並行してジャズを歌っていたことで、声をかけられて出演しました。ブラスバンドをバックに歌うことははじめてで、挑戦したナンバーもこれまで歌ったことのないものばかり。練習では苦労することもありましたが、満員の聴衆のA100周年記念ホールで歌い、これまでとは違う新しい扉が開けました。規模の大きなコンサートを学生だけで全て作り上げているというのは改めて感激しましたし、東京音楽大学の自由な校風を感じました。これから進学されるみなさんにも大学生活では自分のやりたい音楽を思う存分追及して、頑張っていたきたいと思います。

■ DREAM ON BEAT~with 津堅ブラス~ ソリスト 中野太一(大学2年・声楽演奏家コース)



先輩の浅野さんに声をかけられ出演することになりました。ブラスバンドの演奏と普段ミュージカルを観ない聴衆のなかで歌うことに最初は戸惑いもありましたが、後半は大きな拍手がいただけて感動しました。地元の新潟から出てきて、都会のなかでもまれながら、クラシックやミュージカルなど幅広いジャンルの舞台を観に行くことも増え、日々自由に音楽を勉強しています。ミュージカルの魅力は物語の持つ世界観へ観客を誘う事が出来ること。お客様に幸福感を与える事の出来る、そして歌によって生み出される感情を観ている人に訴えかけられる役者になりたいと思いますし、それを思う存分勉強できる明るく自由な校風が東京音楽大学のよさだと思っています。